



Title	癌と人 第23号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 1996, 23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23948
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会
理事長 千代賢治



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本という癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスと言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

第 23 号 目 次

・ごあいさつ	千代賢治	1
・年頭所感	田口鐵男	3
・癌・成人病対策と母子保健	松本圭史	5
・これほど違う最新の人間ドック『総合・がん健診』	藤田昌英	8
・外国語の片仮名表記一偶感	古江尚	12
・いまなぜターミナルケアかー 尊厳死運動からみて	太田和雄	14
・血液がんの治療はここまで進んでいる	木谷照夫	17
・X線発見100周年を迎えて	小塚隆弘	20
・卵巣ガンをどう克服するかが今一番難しい問題である	奥平吉雄	23
・癌と人	栗村敬	27
・粒子線治療	井上俊彦	30
・リンパ球の生存と死滅	木本雅夫	33
・我、癌研究ー培養細胞株との長きお付き合いー	久保田優	35
・プリン体生合成の酵素遺伝子と抗癌剤	板倉光夫	37
・がんとレチノイン酸	瀧原義宏	40
・血管新生の抑制による癌の治療の研究	寺田信行	41
・研究助成をお受けして	佐藤靖史	43
・子どものがん神経芽腫の謎に魅せられて	松村隆文	44
・胃癌と酪酸ナトリウム	加藤淳二	47
・胸腺外で分化するT細胞と癌	安保徹	48
・バイスペシフィック(BS)抗体の完成	新田泰三	50
・癌に対する免疫療法のリアリティ	西村泰治	52
・動物発癌実験のいま	近藤玄	55
・放射線と細胞死	三橋紀夫	56
・Ph.Dの癌研究事始め	関口清俊	58
・平成7年度事業報告	大阪癌研究会	60
・財団法人大阪癌研究会寄附行為		62
・(財)大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿		65
・平成7年度寄附者御芳名		70